

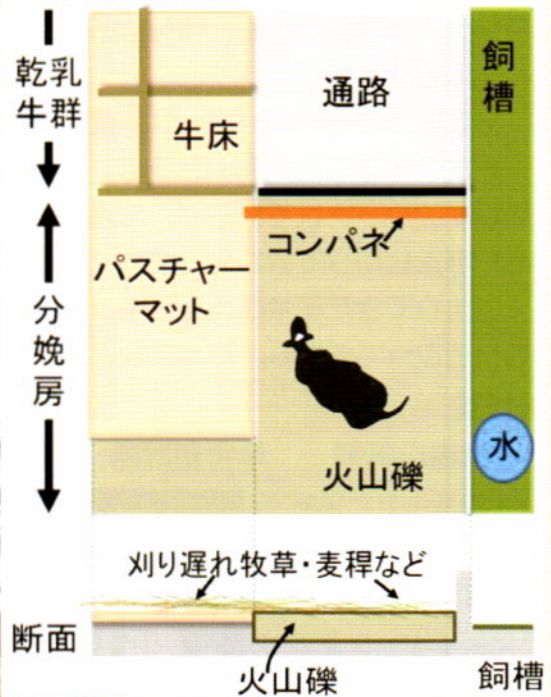
- 生まれた子牛に直接外気が当たらないように、壁側にコンパネを設置。



B農場の事例 フリーストールの一部を改造

面積：約22m²

- 乾乳牛群の入り口付近3ベット分のサイドパーティション、ネックレールを撤去し分娩房に改造。
- 通路部分に、火山礫が15cmの厚さで入っているため、牛床との段差はほぼない。
- 火山礫は滑りにくく、水はけも良い。
- 敷料は刈り遅れの牧草か麦稈をたっぷり使用。



(2) 乾乳後期の群で分娩させる場合（フリーバーン、フリーストール）

乾乳牛群の中で分娩させる場合、その群を過密にしないことが無事に分娩させる第一歩です。敷料をたっぷり敷き、こまめに除ふんを行って衛生的な管理を心がけます。

予定日や分娩兆候の有無を確認して、生まれてきた子牛をできるだけ早く別の場所へ移動します。

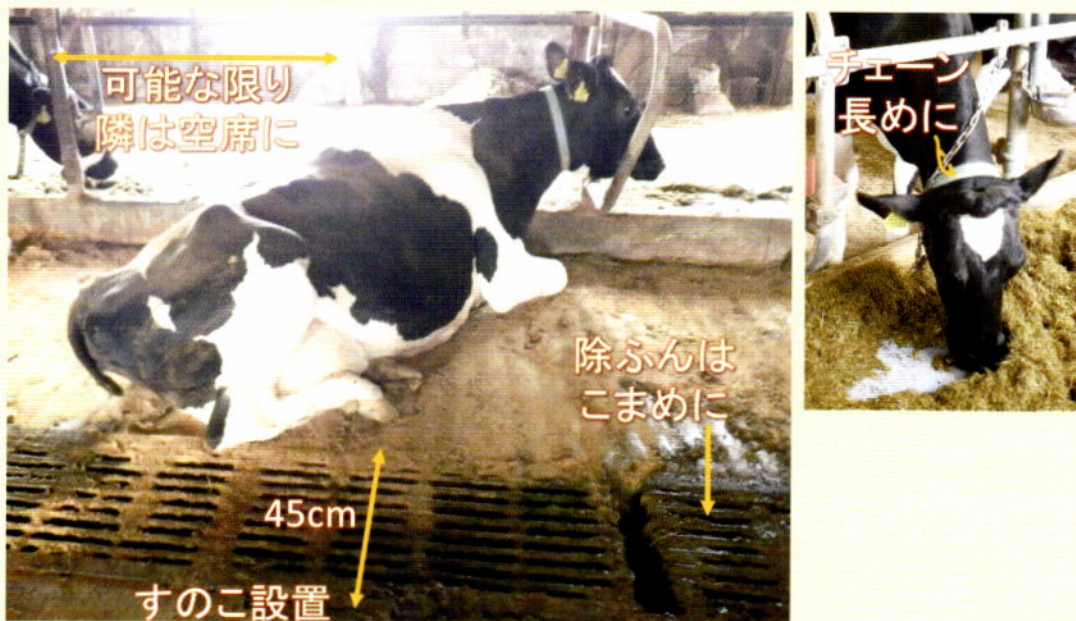
(3) つなぎ牛舎で分娩させる場合

つなぎ牛舎で分娩させる農場では、できるだけ寝起きしやすくすることが重要です。例えば、スタンションをニューヨークタイストールに替える、チェーンを長くする、スタンションを使わずにもくして繋ぐ、などの繋留方法の見直しが望まれます。

分娩の際は、尿溝に子牛が落ちてしまわないように、すのこでふさいで、子牛がふん尿で汚染されないようにします。

C農場の事例 つなぎ牛舎(ニューヨークタイストール)の一部で分娩

- ・ 処理室から一番離れた場所で分娩。チェーンは長めに。
- ・ 盗食防止のために、泌乳牛との間に空席を作る。
- ・ 敷料はおがくすなので、除ふんを1日6回行い、牛床や牛体の衛生管理に努めている。



スムーズに分娩させることは、生まれてくる子牛の健康管理の第一歩です。そのためには、母牛が自由に寝起きができ、衛生的に管理できる分娩施設が望まれます。